

# トビウオ通信 (H29 第 5 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 28 年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

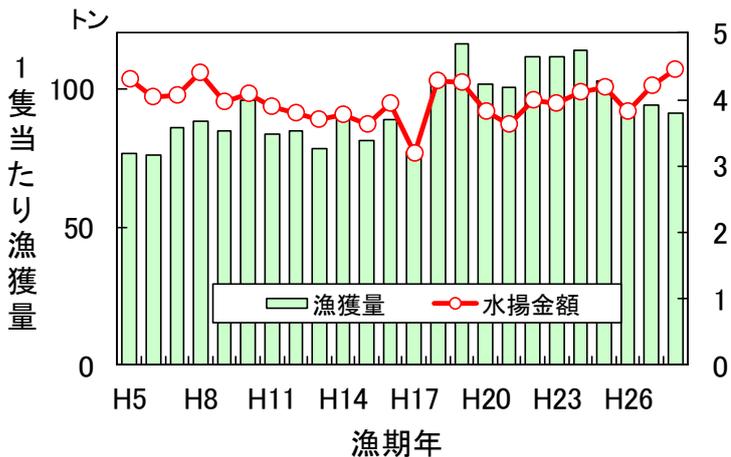


図 1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

### 1 隻当たり水揚金額は平年を上回る

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 42 隻\*の平成 28 年漁期 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 3,812 トン、総水揚金額は 18 億 5,662 万円でした。1 隻当たり漁獲量 (以下、CPUE) は 91.2 トン、水揚金額は 4,444 万円で、漁獲量では平年比を 13% 下回りましたが、水揚金額では平年を 10% 上回りました (過去 10 ヶ年平均; 105.0 トン、4,024 万円) (図 1)。

\*当漁業における島根県全体の操業隻数は 43 隻ですが、統計は 42 隻分の集計です。

### ソウハチ・ムシガレイは低調

ソウハチの CPUE は 15.8 トンで、前年の 1.1 倍で平年の 7 割の水揚げとなりました。年変動が大きい魚種ですが平成 24 年以降は減少傾向にあります。また、ムシガレイの CPUE は 2.6 トンで前年の 9 割、平年の 7 割の水揚げとなり、漸減傾向にあります。この他、アカガレイの CPUE は 7.0 トン (平年の 2.0 倍)、ヒレグロの CPUE は 9.1 トン (平年の 1.3 倍) で、この 2 種はここ 10 年ほど増加傾向にあります。また、ヤナギムシガレイの CPUE は 1.7 トン (平年の 1.1 倍) でした。

### ケンサキイカ低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカの CPUE は 1.8 トンで、前年の 1.6 倍でしたが平年の 4 割の水揚げに留まりました。ヤリイカの CPUE は 4.2 トンで、豊漁だった前年は下回ったものの平年の 1.9 倍と好調でした。

### アナゴ類は平年を上回る、アカムツは低調

アナゴ類は 5.6 トンで、平年の 1.4 倍と好調でした。アカムツの CPUE は 2.6 トンで、前年の 7 割、平年の 8 割となりました。キダイの CPUE は 5.3 トンで平年の 9 割でした。ニギスの CPUE は 6.0 トンで平年の 5 割、アンコウの CPUE は 6.4 トンで平年の 8 割の水揚げに留まりました。マダラの CPUE は 3.4 トンで平年の 8 割の水揚げでした。

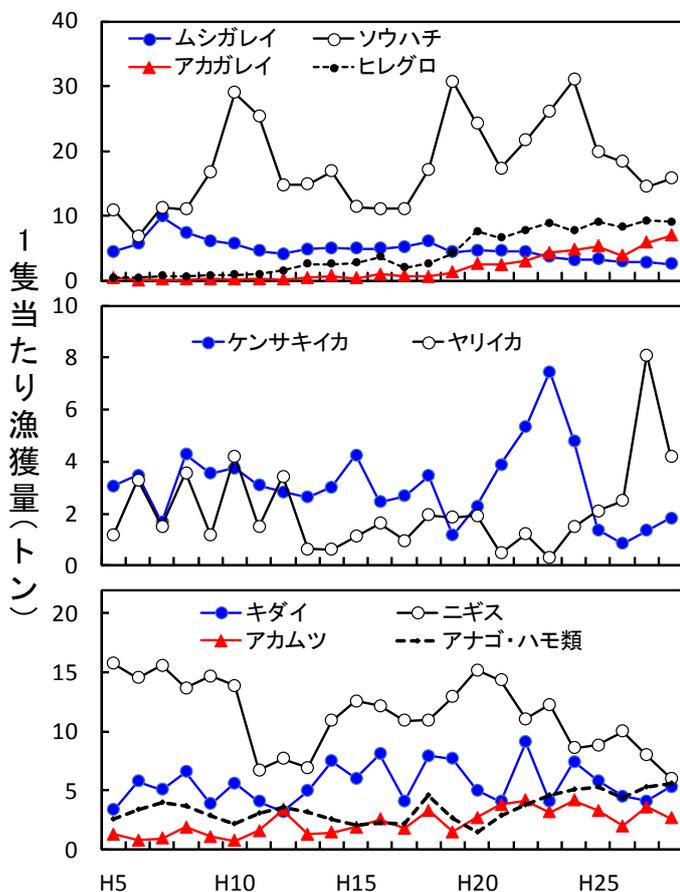


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

## 沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

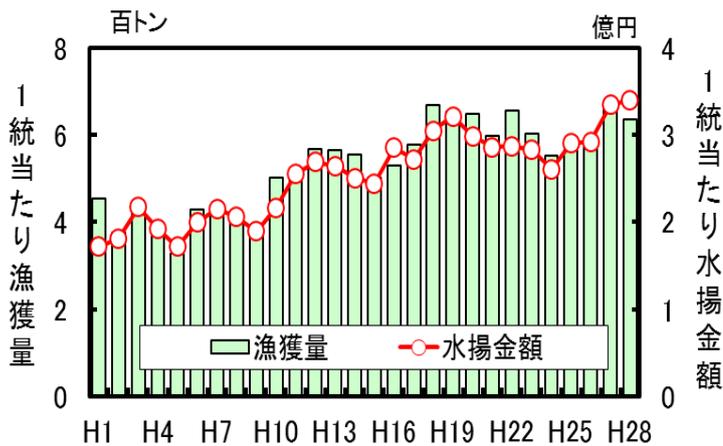


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

### 1 統当たり漁獲量・水揚金額は平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数5ヶ統)の平成28年漁期(平成28年8月16日～29年5月31日)の総漁獲量は3,180トン、総水揚金額は17億0,162万円でした。

また、1統当たりの漁獲量(CPUE)は636トン、水揚金額は3億4,033万円で、漁獲量・水揚金額とも平年を上回り(過去10年平均:620トン、2億9,610万円)(図3)、特に水揚金額は平成に入り過去最高となりました。

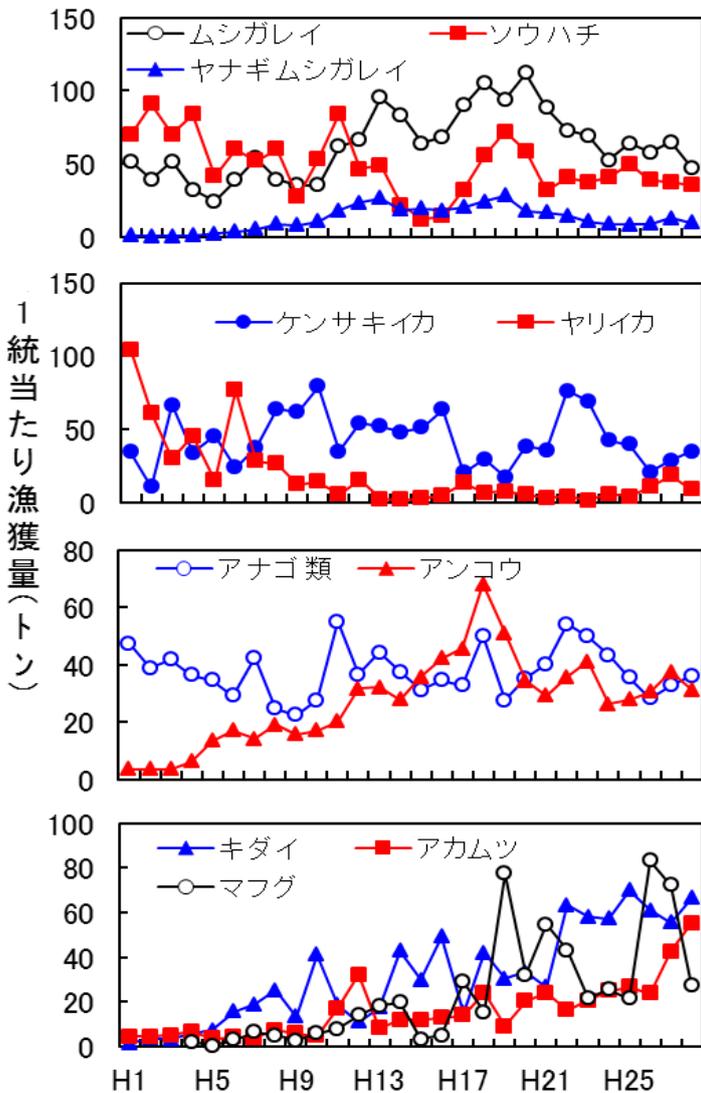


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

### カレイ類 平年を下回る

ムシガレイのCPUEは47トンで平年の6割、ソウハチのCPUEは35トンで平年の8割、ヤナギムシガレイのCPUEは10トンで平年の6割の水揚げに留まりました。

### ケンサキカ・ヤリイカ 低調な推移

ケンサキカのCPUEは35トンで、前年を上回りましたが、平年の9割の水揚げに留まりました。また、ヤリイカのCPUEは9トンで、平年の1.3倍の水揚げとなりました。

### アナゴ類・アンコウ 平年を下回る

アナゴ類のCPUEは36トンで平年の9割、アンコウのCPUEは31トンで平年の8割の水揚げとなりました。

### アカムツ・キダイ 好調を維持

アカムツのCPUEは55トンで、平年の2.4倍の水揚げとなりました。小型サイズ(メッキン)を中心に水揚げされており、中～大型サイズ(ノドグロ)の水揚げ量は近年低位で推移しています。

キダイのCPUEは66トンで、平年の1.3倍の水揚げとなりました。

また、マフグのCPUEは27トンで、平年の6割の水揚げに留まりました。

この他、カワハギ類のCPUEは61トンで平年の4.4倍、マトウダイのCPUEは12トンで平年の9割、ニギスのCPUEは9トンで平年の4割の水揚げとなりました。